
とある大邪神様の物語

November11

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある大邪神様の物語

【Nコード】

N3013Y

【作者名】

November11

【あらすじ】

闇バクラがファラオに破れ次に目覚めたのはなんと、剣と魔法のファンタジーの世界。
いったい、大邪神様はどうなるのか。

大邪神様チート入ります。出来心だったんです。どうか大邪神様の良さに気づく人が増えますように。

チッ、いったいどうなってやがる！（前書き）

勢いでやってしまいました。
後悔はありません。

チツ、いったいどうなってやがる！

「いってて、ここは、何処だ？」

そう言つて俺様は前方を睨み付ける。

そこには、うつそうと生い茂る大きな森があつた。

自己紹介しておこう

俺様の名前は、大邪神ダークネクロファデス

世界を滅ぼす者だ。

しかし、なぜだ。

俺様は確かにあのにつくき王さまに闇のデュエルで負けたはずだ。

それに俺様の姿が、完全じゃなく宿主にくつついていたときの姿になつてやがる。

なぜだ？

そう考えていたとき、森からとてもでかい犬？がよだれを滴ながらやつて来た。

「おいおい、なんだこのテンプレは」

俺様は宿主の記憶を持っているからわかる。

いつだったか、宿主が読んでいた本にそっくりな展開だ。

「これは、シヤレになんねえぞ！」

俺様は、一目さんに逃げ出した。あんな化け物、相手に出来るか！
なんだか知らないがせっかく助かつたんだ、こんなところで不様な死に方してたまるかよ。

しかし、魔物の方が足が早い。

徐々に差がなくなってくる。

そんなとき、俺様はあることを思い付いた。

「ちい、こうならやけだ」

ここは、いわゆるファンタジーの世界、だったらこういうことも出来るはず。

俺は、ポケットに入っていたデッキを取りだし一枚のカードを、天に掲げ叫んだ。

「いでよ、ディアバウンド・カーネル」

結局、俺様の考えは当たっていたわけだ。

俺の目の前には、最近見慣れた俺の相棒

《ディアバウンド・カーネル》

が現れた。

犬っぽい魔物？があからさまに動揺しているのがわかる。

当たり前だ、目の前の何も無い空間からいきなり自分よりでかいヤツが現れたんだからな。

ふん、今がチャンスか

「行け、ディアバウンド・カーネル。螺旋波動！」

グラアアアア

ドゴッ

俺の目の前にいた魔物は呆気なく破裂してしまった。

こうして俺様はなんとか最初の危機をのりこえたのである。

チツ、いったいどうなってやがる！（後書き）

不定期連載になります。

ドウカコメントオネガイシマス。

お前の知ってることを教えてもらおうか（前書き）

不定期に連載だ――

お前の知ってることを教えてもらおうか

なぜこうなった

「ねえねえ教えて下さいよ」

本当になぜこうなった？神様、俺様がいったい何をしたというん．．

．．．．．そっぴゃあうちの世界でいろいろしてたな。だったらこの状況を受け止めなければならぬのか、

「教えて下さいよ」

「うっせえ、黙つてろ」

「えー、あなたが名前教えてくれないんじゃないですか」

「だから黙つ「教えてくれるまで黙りません。」．．．．．」

「

本とどうしてこうなった

一時間前

「はあ、あらかた狩つたか」

俺様の足元には無惨な姿になり果てた、魔物があつた。

最初の危機を回避したあと、俺様はカードがどれだけ使えるのか試していた。

まあ、その結果、死体の山が出来ちまつたけどな。その分襲われる確率はへったはずだ。

カードを試した結果、モンスターは基本生け贄が要らないということと、魔法・トラップも普通に使える、ということが分かった。

つつか、ウィジャ盤があんなにえげつないものだったなんて、俺様でさえ危うく吐きそうになった。

「きやー」

なんだ？

俺は面白半分で、悲鳴のあった方へと向かった。

その結果が、これだ。

結果をいえば、

魔物に殺られそうになっている女を発見

←

まだ使ってなかった《首無し騎士》で、これを撃破

←

そのまま去ろうとした俺様の後を、助けた女が追ってきて今に至る。

．．．．．はあ

「教えてくださいよ」

ああ、いい加減解放してもらいたい。

この会話で一時間だぞ。どこの拷問だ。

．．．．．

しょうがないが、名前をおしえるか。

もちろん、この世界のことを聞き出した後だがな。

「いいだろう、教えてやるよ」

「ほんとですか」

「ただし、条件がある。俺様の質問に答えろ」

「え、わ、分かりました。」

「まず、ここは何処だ」

「え？」

ちっ、しまった。これじゃまるで不審者じゃねえか。

「いや、ちよつとな。足の向くまま、気の向くまま歩いていたら、迷つてな。あいにく地図も落としてしまったから」

「あつ。そう言うことですか」。てっきり記憶喪失かと。そうです

か。あつ、ここは、グランド王国の近くにあるグランドの樹海。つよい魔物が出るこ とで有名で、別名 帰らずの森 なんて呼ばれている所です。そういえば、さっきのあれ。なんだったんですか？」

あ？《首無しの騎士》のことか。

「あれは、俺が召喚した。使い魔だ」

この世界で、モンスターなんて「使い魔」以外なんて呼びやいいんだよ。

「あなた、召喚師だったんですね。」

なぜか眩しいほどの笑顔で言われた。

「そういえば、な・ま・え、まだ教えてもらってません」

「いや、まだ質問はあるんだが……………」

「こっちが先です。」

ちつ、ここで教えなきゃまた振り出しか、

「俺様の名前は、大邪……………バクラだ」

「え？バクラさんですか？」

やべえ、危うく本名（大邪神ダークネクロファース）言いそうになつて焦った。でも、どうやら誤魔化せたみたいだ。

「バクラさん、質問の続きはグランド王国でしませんか？ここにいたら、また魔物が襲ってくるかも知れませんよ？」

「ちつ、いいだろう」

「それじゃーい「ちよつと待て」はい？」

「まだお前の名前を聞いてないぞ。」

「あつ、すみません。私の名前はマノといいます。それじゃ行きましょう」

これが、この世界ではじめてあつた人類との会話であつた。

道の途中で（前書き）

すみません。

あらすじと大分違います。

自分の文章力の無さが憎らしい。

道の途中で

マノの案内でグランド王国の方向に歩く。

道中襲ってくる、みどほしらずのモンスターどもを俺様のクリッター4体と夢魔の亡霊で蹴散らす。しかし、使役している俺が暇だから、いまは暇潰しにマノに話しかけて、情報を収集しているところだ。

どうやら、金の単位はG1^{ゴールド}ゴールドで日本円にして約10円らしい。ゲームなどでお馴染みの銅の剣は1400G。まあ、銅にしては妥当だ。

他には、各国のパワーバランスだ。

グランド王国は大陸の極東。魔術の研究で王国になったが。最近はしけてるらしい。次は、グランド王国の真上に位置する宗教国家リバンド。大陸の中枢に位置する大国ガールドアルズ。そこと戦争中のシュバルト帝国。

まったく、人間様はそんなに戦争が好きなのかね。全て壊したくなってくる。

マノ視点

「その中間には、ガイドス山脈があつて…」

はあ、何でこんなあたり前のことを話さなきゃいけないんだろう？
そもそも、この人はなんでこんなあたり前のことを、真剣に聞いているんだろう。

ほんと、この人はいつたいなんなんだ。あのBランクマイナーの魔物【デスバウンド】を一撃で倒すことができる魔物を召喚できて、
なおかつ今現在話ながら5体の魔物を操れるなんて……………。

もしかしたら、この人なら廃れていくグラント王国を建て直してくれるかもしれない。

この人は絶対に家に連れて帰らなきゃ！！

こうして、2人はグラント王国への道を歩むのであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3013y/>

とある大邪神様の物語

2011年12月28日22時54分発行